

## 三重大学教育学部附属中学校 研究概要

### ● 研究テーマ

探究活動を中心としたカリキュラムを通して、生活や社会をきりひらく生徒の育成  
— 生徒一人一人のウェルビーイングを目指して —

### ● 研究の柱

- (1) 学校教育目標達成のためのカリキュラム・マネジメント
- (2) 発達段階に応じた探究活動(総合的な学習の時間)のデザイン
- (3) 一人一人のウェルビーイングの実現

#### (1) 学校教育目標達成のためのカリキュラム・マネジメント

近年、少子高齢化やグローバル化の進展、AIをはじめとする技術革新など、社会構造や雇用環境は大きく、また急速に変化している。そして、VUCA 時代と言われる、まさに予測困難な時代となっている。このような時代では、社会にある様々な問題に目を向け、自ら問いを立て、他者と協働しながら解決を図ることや、多くの情報の中から必要な情報を見極め、それらを正しく理解し情報を再構成し新たな価値を見出すこと、多様で複雑に変化していく社会において目的を再構築できるようにすることが求められている。そのような状況に直面しようとしている今、上記にある「求められる力」、例えば「環境の変化に迅速に適応し、柔軟に対応する力」「複雑な問題を解決するための論理的思考能力」「人々と効果的に協働する力」「従来の考えにとらわれず、新しいアイデアや方法を生み出す力」「学習に向かう力」をつけていくには、探究的な学習が不可欠であると考えます。総合的な学習の時間は、「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成すること」を目標にしており(文部科学省、2022)、また、2017年学習指導要領改訂においても、「探究的な学習の過程を一層重視し」とあるように、これからの時代において「探究的な見方・考え方」や「探究的な学習」がますます重要な役割を果たすとも言える。

前年度(2023 年度)までの本校の研究テーマを「社会の変化に対応できる生徒の育成 ～SDGs を核としたカリキュラム・マネジメントの実現～」として実践を行ってきた。総合的な学習の時間における探究的な学習と各教科において、本校が設定をした8つの「資質・能力」<sup>1)</sup>を育成してきた(城所ら、2023)。2023 年度 11 月に公開研究会で招聘した田村学先生(現文部科学省初等中等教育局 主任視学官)からは、本校の研究に対して、カリキュラムを考えていくにあたっては文科省の示す資質・能力(「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの柱)と本校で育成したい 8 つの「資質・能力」との関連を整理していくことが必要であるとの指摘を受けた。その背景には、文科省の示す資質・能力と本校が設定した 8 つの資質・能力とが二つ同時に別々に存在する形となっているために、ダブルスタンダードの状態になっているという指摘であった。

ところで、学校教育目標とは、「児童・生徒のよりよい成長のために、各学校によって設定される、学校の教育目標およびその経営の指針とされる目標のこと」であり、「学校が置かれている地域社会の実態や児童生徒、教師等の学校の実態などに即した現実の問題を解決することを図るものとして樹立することが求められる」とある(奥村、2021)。そこで、今年度の研究テーマを設定していくにあたって、まず学校教育目標を捉え直し、文科省

が示す3つの資質・能力と関連付けて本校での「めざす生徒の姿」を改めて議論するところからスタートすることとした。

三重大学教育学部附属中学校の学校教育目標は「豊かな創造性とたくましい実践力をもち、生活をきりひろく生徒の育成」である。この学校教育目標は、現在確認できるところで1988年ごろに設定されたものであり、約40年近く前から変わらず理念として掲げられている。だが、この40年の間に生活や社会は大きく変化しており、現代の生活や社会を反映させたものであるとは言い難い。また、理念として掲げられているものの、教員一人一人の中での意識には差があり、共通認識には至っていなかった。そこで、昨年度末から研究部を中心に現代の生活や社会、現代の教育課題に適應できるように、学校教育目標の捉え直しを図った。まずは、学校教育目標を「豊かな創造性」「たくましい実践力」「生活をきりひろく」の3つの要素に分けて考えることとした。このとき、全体研究会を開き、教師全員でその3つの要素の中にどのような力が含まれているのかを考え整理していった。そして、そこから見出した資質・能力を、文科省が示す3つの資質・能力（「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」）に当てはめていこうとした。しかし、そうなれば昨年度までの研究と同じように育成すべき資質・能力の柱が2つ生まれてしまうことが懸念された。

そのため、学校教育目標の「豊かな創造性」「たくましい実践力」「生活をきりひろく」の3つの要素を、現代の諸課題を踏まえて改めて捉えなおし、どのような姿であるのかを具体的に定義することにした（表1）。この学校教育目標を達成するために、総合的な学習の時間での探究的な学習と各教科の授業での学びの往還によって、「生活をきりひろく生徒」を実現することを目指した。

表1 学校教育目標の捉え直し

|      | 豊かな創造性                                                                                                                                                                       | たくましい実践力                                                                                                                                                              | 生活をきりひろく                                                                                                                                                                                                                                  |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 解釈   | <ul style="list-style-type: none"> <li>学んだ知識・技能を使って、生活や社会の問題発見・課題解決をし、一人一人のウェルビーイングの実現のために新しい価値を創造することができる。</li> </ul>                                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>失敗を恐れず、試行錯誤しながら、粘り強く目標達成と自己実現に向けて繰り返し努力し続けることができる。</li> </ul>                                                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活や社会の中で自分らしく生きるために、ときに他者と協力しながら問題発見・課題解決をしたり、真理の追究をしたりすることができる。</li> </ul>                                                                                                                      |
| 生徒の姿 | <ul style="list-style-type: none"> <li>学んだ知識・技能を使って問題解決を図る</li> <li>学んだ知識・技能を組み合わせる</li> <li>できる・できないにかかわらずアイデアを出してみる</li> <li>問題や課題を解決していくためのアイデアを出すことができる。→実行する</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>実践する</li> <li>諦めない</li> <li>努力できる</li> <li>計画的に取り組める</li> <li>自分の位置を知っている（メタ認知）</li> <li>挑戦できる</li> <li>自ら行動する（主体的）</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>前向きに生きる</li> <li>意欲的に行動する</li> <li>他者と協力する</li> <li>新しいアイデアを生み出す</li> <li>ゼロからイチを生み出す</li> <li>良好な人間関係を築こうとする</li> <li>他の人とうまくやっていく（協働）</li> <li>自ら行動できる（主体的）</li> <li>社会の中で、自分を生かそうとする</li> </ul> |

## （2）発達段階に応じた探究活動（総合的な学習の時間）のデザイン

### ①総合的な学習の時間における探究的な活動について

次に総合的な学習の時間において探究的な学習を中心に据えることについては、教科で身につけた力を、総合的な学習の時間の学びに活用することで、学校教育目標の達成につながると考えたためである。そこで、これをもとに総合的な学習の時間、各教科で目指したい「豊かな創造性」「たくましい実践力」「生活をきりひろく」生徒の具体的な姿を示し、総合的な学習の時間と各教科の授業での探究的な学習をとおして「生活をきりひろく生徒」を育みたいと考えた。

2008 年改訂学習指導要領において新設された総合的な学習の時間の目標は、「(1)自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること。(2)学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること。」とあるが、特に探究的な学習についてはこれまで課題が指摘されてきた。2022 年度から高等学校でも「総合的な探究の時間」がスタートし、探究的な学習の重要性が増している。中学校と高等学校での探究的な学習の系統性を考慮した場合、中学校での探究活動に関する実践を検討していく必要があるだろう。本校での探究的な学習が総合的な学習の時間の一つの事例として、他の学校に示すことができればと思っている。

## ②前次研究の課題より

また、前回の「総合的な学習の時間」の探究的な学習(STEP)<sup>2)</sup>では、【協働】【問題発見】の資質・能力が課題として挙げられた。前回(第 31 集)の紀要には、以下のように記述されている。下記に挙げられた【協働】【問題発見】の資質・能力が課題として挙げられていることも在り、これらの資質・能力を高めていくためにも、「総合的な学習の時間」において継続して探究的な学習を行っていきたい。

STEP の取組における課題については、主に 2 つのことが挙げられる。1 つ目は「生徒同士の関係性が十分に高まっていない」ことである。テーマ披露会や中間発表会の際、生徒たちは研究内容よりも、友人関係を優先して発表を見に行く傾向がある。そのため、互いの研究を見合うことに終始し、その内容に対して質問や意見をすることが極端に少ない現状がある。批判的思考力である【じっくり・いろいろ】の資質・能力を発揮し、互いの研究を十分に高め合うことができているとは言い難い。生徒同士の関係性を十分に高めることで、真の意味での【協働】の育成を図ることが必要である。

2 つ目は「問題発見とその解決に向けた過程が乖離している」という点である。それぞれのグループは研究テーマを設定する時点で、その解決に向けた方法や結果を既に考えている。しかしながら、その方法が一边倒であったり、結果についても妥当なものとなっているかの検証がなされていなかったりすることが、全体的に多い。様々な解決方法があることを調べ、比較し、試行錯誤したうえで取組を進めていく過程が重要であると考えため、研究テーマの設定により多くの時間を割き、教師のファシリテーションによって、その乖離を埋めることが必要となってくる。設定した 8 つの資質・能力の中でも、特に「問いを立てる力」である【問題発見】の育成をいかにして図るかが今後の課題である。

(『三重大学教育学部附属中学校 研究紀要 第 31 集(2023 年)』一部抜粋)

そして上記の課題から、2023 年度3学期に「研究とは何か」、つまりは研究の問いをどのように生徒たちに考えさせるか、その方法についての検討を始めた。三重大学の村田 晋太郎 准教授・市川 俊輔 准教授・水藤 弘史 教授・瀧日 滋野 准教授・横山 真智子 講師にもご協力いただき、「研究とはどういったものなのか」「問いを立てるにはどうすればいいのか」「実際に問を立ててみよう(図 1)」などのレクチャー動画を作成していただき、それを基に授業を進めたり、実際に来校していただき、生徒と一緒に問いだての対話を行ってもらったりして(図 2)、次年度の研究に向けての準備を行った<sup>3)</sup>。

|                |                                                                                                 |          |                                                                                                             |   |   |
|----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|
| 作成目的           | 研究テーマを作成するため（サンプルとして）                                                                           | 日付       | 年                                                                                                           | 月 | 日 |
| 問い（テーマ）        | 裸足で走るとは疾走速度を低下させるか                                                                              |          |                                                                                                             |   |   |
| 仮説             | 速く走るためには、ピッチが速く、ストライドが大きいことが必要であることから、裸足の場合、滑りやすく、十分に地面を蹴れないためストライドが小さくなり、疾走速度が低下するのではないか       |          |                                                                                                             |   |   |
| 疑問（不明確なもの）     | 速く走るための走り方はどうなっているか<br>なぜ、速く走る人はリズムがいいか<br>なぜ、速く走ろうとする人は靴を脱ぐ<br>靴の種類によって走りに影響がある<br>速く走れる靴はあるのか | わかっていること | 速く走る人は・・・<br>ストライドが大きい<br>ピッチが早い<br>腰の上下動が少ない<br>裸足や靴について・・・<br>裸足は滑りやすい<br>靴は足を守る<br>重い靴や足のサイズより大きい靴は走りにくい |   |   |
| 興味・関心（身近なものから） | 走ること、短距離走、パフォーマンス向上、健康、歩行との違い、速く走りたい、トレーニングなど                                                   |          |                                                                                                             |   |   |

図 1 研究の問い立てフレームワーク



図 2 実際の取り組みの様子

さらに、生徒たちが研究を進めていく中での【協働】することに関わって、教師自身が生徒の対話を促す「ファシリテートする力」の向上が必要であると考えた。そこで、同じく 3 学期に NPO 法人や企業でファシリテーターを務める丸毛幸太郎さんをお招きして、教師のファシリテート力を高めるための研修会を行った。

### ③今年度の取組

今年度においては、学校教育目標の「豊かな創造性」「たくましい実践力」「生活をきりひらく」から総合的な学習の時間における目標と年間指導計画の議論を行った。ここでは、総合的な学習の時間における目標として「豊かな創造性」「たくましい実践力」とはどういった力なのか、「生活をきりひらく」とはどのような姿なのかを議論した。総合的な学習の時間の目標については、平成 29 年告示の学習指導要領の「第 3 章 各学校において定める目標及び内容の取扱い」で「各学校における教育目標を踏まえ、総合的な学習の時間を通して育成を目指す資質・能力を示すこと」と示されているように、学校教育目標と総合的な学習の時間とのつながりは強い。それらも踏まえ、本校の学校教育目標を基に、どのような力をつけていくのか、どのような姿を目指すのかを議論した。

そして、3 年間でこれらの目標を達成していく年間指導計画を作成した。探究的な学習の取組を、1 年間の断続的な取り組みではなく 3 年間の継続した取組とすることで、発達段階、学習段階にも応じた取組にしたいと考えた。1 年次は探究的な取組への準備期間とすることで知識を蓄え方法を身に付けて、2、3 年次の活動につなげていく形をとった。活動の実施についての詳細は、以下に記すこととする。

「総合的な学習の時間」の目標（表 2）と年間指導計画（表 3）については、以下に示すとおりである。

表2 「総合的な学習の時間」の目標

|     | 豊かな創造性                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | たくましい実践力                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1年生 | <ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決のための知識・技能を身につけ、物事を多角的な視点で考えることができる。</li> <li>自分の興味・関心は何なのかを見つけることができ、探究・追究していくための問いを立てることができる。</li> <li>身の回りにある事象に対して、疑問をもつことができる。</li> <li>問題を発見し、課題解決に向けて動くとき、学んだ「知識・技能」を使おうとしている。</li> </ul>                                                                                                                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の強みと弱みをわかっている。</li> <li>目標設定をし、達成に向けての計画を立てて取り組むことができる。</li> <li>できる・できないにかかわらず、行動に移すことができる。</li> <li>上手くいかなかったときに、すぐに諦めることなく、粘り強く取り組むことができる。</li> </ul>                                                                                                                                                       |
| 2年生 | <ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決のための知識・技能を身につけ、解決に向けて多角的に柔軟性をもって対応していくことができる。</li> <li>問題を発見し、課題解決に向けて動くとき、学んだ「知識・技能」を使おうとしている。</li> <li>自分の興味・関心は何なのかを見つけることができ、探究・追究していくための問いを立てることができる。</li> <li>身の回りにある事象に対して、疑問をもつことができ、解決(解明)する問いにしていけることができる。</li> <li>自身のウェルビーイングを実現するためには、何が必要かについて考えることができる。</li> </ul>                                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の強みと弱みをわかったうえで、足りないものが何かを考え、強みに変えていく努力ができる。</li> <li>目標設定をし、計画的に実行に移すとともに、試行錯誤しながら目標達成に向けて取り組むことができる。</li> <li>課題解決、自己実現に向けて行動に移すことができる。</li> <li>上手くいかなかったときに、どうすれば上手くいくかを考えることができ、すぐに諦めることなく、粘り強く取り組むことができる。</li> </ul>                                                                                      |
| 3年生 | <ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決のために、身につけた知識・技能を必要に応じて取捨選択し、「生きて働く知識・技能」として使うことができる。また広い視野を持ち、新たな視点や多角的な視点で問題解決のためのアイデアを出すことができる。</li> <li>自分の興味・関心から、探究・追究していくための問いを立てることができる。</li> <li>身の回りや社会、世の中にある事象に対して、疑問をもつことができ、解決(解明)する問いにしていけることができる。</li> <li>確かな情報を集めることができる。そして、そこから自身の考えを構築できる。</li> <li>自身のウェルビーイングを明確にし、実現のために自分にできることを考え、行動に移すことができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>自分を分析し、強み弱みを理解したうえで、さらに自己を高めるために必要な方法を見出し努力することができる。</li> <li>目標を設定したうえで筋道を立てて論理的に考え、計画的に実行に移すとともに、試行錯誤を繰り返しながら、目標達成に向けて取り組むことができる。</li> <li>課題解決や自己実現に向けて、前向きに取り組んだり、行動に移したりすることができる。</li> <li>上手くいかなかったときに、改善点を見出すことができ、すぐに諦めることなく、粘り強く取り組むことができる。課題の解決や、自分と他者、社会のウェルビーイングの実現に向けて、諦めずに努力し続けることができる。</li> </ul> |

| 生活をきりひろく                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の身の回りや社会にある問題に対して問題意識を持ち、解決に向けて行動したり、未だ解明されていないことに対してとことん追究したりすることができる。</li> <li>社会を構成する一人であるとの自覚を持ち、当事者意識をもって行動することができる。</li> <li>ウェルビーイングの実現に向けて、どうすれば実現可能かを考え、前向きに取り組もうとする。</li> <li>何か問題が生じたときに、解決に向けて、自ら行動を起こすことができる。</li> <li>自ら問題を発見し、その解決に向けて行動することができる。</li> <li>積極的に社会の中で活躍しようとして、自分の良さを生かしたりしている。</li> <li>広い視野で物事を捉え、考え、ときに他者と協力しながら自身のウェルビーイングと他者のウェルビーイング、さらには社会のウェルビーイングの実現のために、行動を起こすことができる。</li> </ul> |

3年間を見通した探究的な学習を実施しようと  
考え、図3にあるように、各学年の総合的な学習の  
時間のコンセプトを考えた。1年次は、「スタートアッ  
プ期」として、探究の方法や、探究を進めていくため  
に必要な関係性を構築していく。2年次は「ベーシ  
ック期」として、自身の興味・関心から問いを立て、  
その解決に向けて探究を行っていく。3年次は「アド  
バンス期」として、ベーシック期の課題を踏まえて、3  
年間の集大成としてさらに深い探究に取り組むこと  
を目指した。1年次は学年・学級単位で取り組む  
が、2・3年生の探究的な学習は、基本的に個人研究として、一人一人が研究テーマを持ち、進めていく。

以下は、「3年間を見通した総合的な学習の時間の年間指導計画」(表3)である。探究的な学習が3年  
間で完成する形をとっている。また、探究的な学習における4つのプロセス(課題の設定、情報の収集、整  
理・分析、まとめ・表現)を3年間を通してスパイラル的に向上していくことを目指している。1年次は研究の

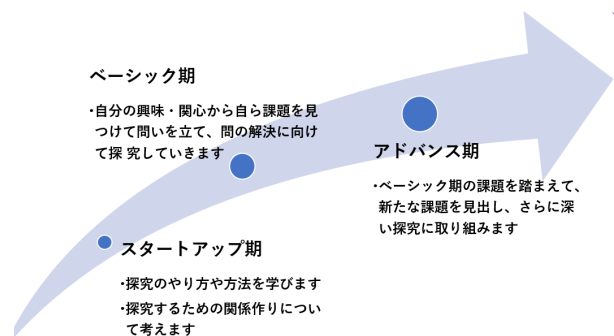


図3 各学年の総合的な学習の時間の計画

はじめであるため、各学級において教師主導で授業を行っているが、2, 3年次は個人で研究を行っている。ただ、2, 3年生の活動は別々に行うのではなく、2学年合同で活動を進めている。2年次での経験を3年次で生かしたり、2年生にアドバイスをしたり、また3年生は2年生から新たな気づきを得たりするなど、合同で行うことで相互に高めあうことを狙っている。さらに、研究の内容においても、2年次においては自身の興味・関心からスタートするが、3年次においては興味・関心からどのように社会とつながっていくかに視点を置き、4つのプロセスを繰り返しながら3年間での取り組みとしている。

なお、総合学習の進め方について、生徒に示したものを<別紙1>で一部紹介する。

表3 3年間を見通した総合的な学習の時間の年間指導計画

|     | 4月                 | 5月                               | 6月             | 7月                 | 8月・夏休み                  | 9月                                    |
|-----|--------------------|----------------------------------|----------------|--------------------|-------------------------|---------------------------------------|
| 1年生 | エンカウンター<br>(仲間づくり) |                                  | 教員による<br>ラボの実施 | 研究に向けて<br>説明       | はじめての<br>探究準備<br>教科自由研究 | 自由研究の発表                               |
| 2年生 | エンカウンター<br>(仲間づくり) | 研究を進める                           | 研究を進める         | 研究を進める<br>今後の予定の確認 | 研究を進める                  | 研究報告会<br>(中間発表)<br>これまでの研究<br>をまとめて報告 |
| 3年生 |                    | 個人研究<br>スタート<br><br>修学旅行<br>(平和) |                |                    |                         |                                       |

|     | 10月                             | 11月            | 12月           | 1月                   | 2月                   | 3月                   |
|-----|---------------------------------|----------------|---------------|----------------------|----------------------|----------------------|
| 1年生 | 研究の手法<br>講座(映像)<br>最終発表見学(10月末) |                | 校外学習<br>(町探検) | 校外学習<br>まとめ          | 研究の問い立て<br>(次年度に向けて) |                      |
| 2年生 | 最終発表                            | 振り返り<br>レポート作成 |               | 研究の問い立て<br>(次年度に向けて) | 校外学習<br>(防災・平和)      | 研究の問い立て<br>(次年度に向けて) |
| 3年生 |                                 |                |               |                      |                      |                      |

### (3) 一人一人のウェルビーイングの実現

サブテーマを「— 生徒一人一人のウェルビーイングを目指して —」とした。OECD のラーニング・コンパス 2030 では、個人・社会のウェルビーイングを目指している。自身のウェルビーイングの実現に向けて、どのように見通し(Anticipation)をもち、行動(Action)し、振り返る(Reflection)かが大切となる。

ウェルビーイングは、「身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念」「多様な個人がそれぞれ幸せや生きがいを感じるとともに、個人を取り巻く場や地域、社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態にあることも含む包括的な概念」であると解釈されている。OECD は、「より良い暮らしのための、より良い政策(“Better policies for better lives”)」を掲げ、単に「経済的成長」を目指してGDPなどの経済指標を高めることだけではなく、究極的

に人々が心身共に幸せな状態（ウェルビーイング）を作り出すことへと移行している（白井、2020）。また、『『私たちが実現したい未来（The Future We Want）』について、『多くの異なった見解があるとしても、社会としてのウェルビーイングは共有すべきゴールである』としているように、ウェルビーイングは、人それぞれによって異なり得る『私たちが実現したい未来（The Future We Want）』を考える上での、大きな方向性を示す枠組みとして理解されている」とある（白井、2020）。つまり、ウェルビーイングは個人だけでなく社会レベルのウェルビーイングを考えることが最終目的地であるということだ。

第4回教育振興基本計画（令和5年6月）の「日本発・日本社会に根差したウェルビーイングの向上」には、「日本の社会・文化的背景を踏まえ、我が国においては、自己肯定感や自己実現などの獲得的な要素と、人とのつながりや利他性、社会貢献意識などの協調的な要素とのバランスを取り入れ、日本社会に根差した『調和と協調』に基づくウェルビーイングを教育を通じて向上させていくことが求められる」とある。また、ウェルビーイングは二つに分けられ、獲得的なウェルビーイングである「自己肯定感」「自己実現」などと、協調的なウェルビーイングである「人とのつながり」「利他性」「社会貢献意識」などをバランスよく向上させていくことが求められている。

本校においては、「各教科や総合的な学習の時間で身につけた力を、自分の生活やこれからの生き方に生かしていく」ことが、生徒たちのウェルビーイングにつながるものと考えている。

独立行政法人国立青少年教育振興機構が行った、「平成 26 年度 高校生の生活と意識に関する調査」では、「私は人並みの能力がある」という質問に対して肯定的に答えた学生は、60%にも満たなかったが、アメリカ、中国はともに80%を超え、韓国も65%以上の結果となっている。また、「自分はダメな人間だと思うことがある」との質問に対しては、「とてもそう思う」「まあそう思う」との回答が70%を上回る結果であった。こちらについては、アメリカが約45%、中国が約55%、韓国が約35%と日本が一番高い数値となっている。前回調査の2011年からは良い傾向になっているものの、それでも日本の高校生の自己肯定感は他国と比べると低いと言わざるを得ない。また、2023年にこども家庭庁が行った「我が国と諸外国のこどもと若者の意識に関する調査」によると、「社会をよりよくするため、私は社会における問題の解決に関わりたい」との質問に対して、前回の調査からは肯定的な数値は上がっているものの、他国（アメリカ、ドイツ、フランス、スウェーデン）よりも低い値となっている。様々な社会参画に係る質問については、すべてにおいて肯定的な回答が低いわけではない。しかし、注目すべきは「わからない」と回答した割合が、他のどの質問においても一番高いということである。つまりは、社会について関心のない割合が高いと言えるのではないだろうか。

また、本校では自分の興味から活動を進めることで、今の充実感、自己肯定感を得ていく。ここで得た力を、これからの将来、地域、未来の自分、社会につなげていくことができれば、生徒一人一人のウェルビーイングの実現も可能なのではないかと考えた。各教科や総合的な学習の時間における学びが、自分の生活や生き方につながっていくと考えることができれば、生徒たちの「自己肯定感」や「社会貢献意識」なども高まっていくのではないかと考える。特に、これからの社会を生きていくには、学力だけではなく力（創造力、実践力、自ら問題を見出し解決していく力、他者と協働する力、新たな価値を見出していく力など）が必要だとされている。その力をつけていくには、各教科の授業で探究的な課題に取り組むだけでなく、総合的な学習の時間においても探究活動を行っていくことが有効であると考え実践を行っている。

社会とつながるにはどうすればいいのか、社会と接点を持たせる課題を提示していくことで、ウェルビーイングにつながるものと思われる。しかしながら、生徒一人一人がウェルビーイングを達成したかどうかを評価していくのは非常に難しい。アンケートを実施してだけでなく、成果を見とっていくことが今後は必要となるだろう。

## ● 各教科における「探究」について

各教科についても、学校教育目標と研究テーマを基に教科の研究テーマを設定、また「豊かな創造性」「たくましい実践力」「生活をきりひらく」生徒の具体的な姿(目標)を各教科会議などで検討した。しかし、各教科には、教科の特性を踏まえた学習内容があり、汎用的かつ高次の創造性や実践力には、総合的な学習の時間のように迫ることは必ずしも目指されているものではないだろう。そこで、学校教育目標と各教科の目標の接点を探るために、教科の特性を踏まえた「豊かな創造性」「たくましい実践力」とは何か、また「生活をきりひらく」つまりは社会をよりよくしていくとは一体どういうことなのかを議論しており、現在も継続的に行っている。例えば、国語における「創造性」とは、「実践力」とは、生活や社会との接点はどこにあるか、について議論を行っている。以上のような議論を進めていく中で、各教科での学習が学校教育目標に向かうことができるようになり、なおかつ総合的な学習の時間との関連性も見出しやすくなると考えた。

「習得」「活用」「探究」の学習活動において、各教科では「活用」の段階が重要視されるだろう。しかし、各教科における学習においても、探究的な学習を意識し、それぞれの教科の本質に迫ることができる学びを実現していかなければ、総合的な学習の時間と各教科の効率的・効果的な往還にはつながらないだろう。そこで、各教科の授業で、「何を理解しているか、何ができるか(生きて働く「知識・技能」の習得)」に留まることなく、「理解していること・できることをどう使うか(未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成)」、つまりは現代社会の諸問題に迫る学習課題(真正な学び)を中心に据えた指導を計画・実践・検討を行っていきたい。そうすることで、「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養)」、つまりは「生活をきりひらく」生徒を育成することにつながり、総合的な学習の時間のよりよい学びに接続できると考えた。

### 注釈

- 1) 国立教育政策研究所が作成した「21世紀に求められる資質・能力」に基づいて、本校が設定した資質・能力のこと。資質・能力は、「根拠(論理的思考力)」「じっくり・いろいろ(批判的思考力)」「アイデア」「問題発見」「問題解決」「振り返り」「協働」「伝達・発信」の8つ。
- 2) 「STEP」とは、SDGs を題材として総合的な学習の時間での探究的な学習活動のこと。「Save The Earth Projects」の頭文字をとって「STEP」としている。
- 3) 三重大大学の村田晋太郎准教授が主となり、他5名の先生方とともに「探究のはじめ方」についての動画を作成していただいたり、講義を行っていただいたりした。その内容である、研究の進め方や考え方、ワークシートの例、探究の授業の進め方などが集約されたものが、『探究のはじめ方』というリーフレット(冊子)にまとめられている。本校教員もこれらを活用し、授業を行っている。

### 引用文献

文部科学省(2017):中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総合的な学習の時間編

城所拓磨ほか(2023):『研究紀要 第31集』,三重大大学教育学部附属中学校

奥村好美(2021):教育評価重要用語辞典,明治図書

文部科学省(2022)今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開:未来社会を切り拓く確かな資質・能力の育成に向けた探究的な学習の充実とカリキュラム・マネジメントの実現(中学校編)、[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/sougou/20220426-mxt\\_kouhou02-2.pdf](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/sougou/20220426-mxt_kouhou02-2.pdf)(2025.10.18.最終アクセス)

白井俊(2020):OECD Education2030 プロジェクトが描く教育の未来——エージェンシー, 資質・能力とカリキュラム——, ミネルヴァ書房

独立行政法人 国立青少年教育振興機構(2014)平成 26 年度 高校生の生活と意識に関する調査 <https://koueki.net/user/niye/110330412-2.pdf>(2025.10.19.最終アクセス)

子ども家庭庁(2023)【資料6】我が国と諸外国のこどもと若者の意識に関する調査 報告書(抄)[https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic\\_page/field\\_ref\\_resources/01dd209f-ae76-4fcc-bebe-50f23bb0e59c/c8274924/20240626\\_councils\\_shingikai\\_iken\\_senmon\\_01dd209f\\_09.pdf](https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/01dd209f-ae76-4fcc-bebe-50f23bb0e59c/c8274924/20240626_councils_shingikai_iken_senmon_01dd209f_09.pdf)(2025.10.19.最終アクセス)

(文責:研究部長 楠本 涼子)

# 三重大大学教育学部附属中学校

## 探究活動のすすめ

### 1. 何のために探究をするのか

今、私たちを取り巻く環境は日々変化を続けています。そして、将来何が起きるのか予測が困難であるとも言われています。さらに、問題は複雑化して、解決していくことも難しく、答えはいくつも存在しています。そんな時代を生きていくためには、自ら課題を見つけ、他者と協働しながら解決をしていくことが必要となります。

附属中学校では、「豊かな創造性とたくましい実践力をもち、生活や社会をきりひらく人」をめざして、総合的な学習の時間に探究活動を行っていきます。自ら課題を見つけて問いを立て、その解決に向けて取り組んでいきます。そしてみなさんの学びが、みなさん自身のウェルビーイング（こころも、からだも、社会もよい状態）につながることをめざします。

### 2. 探究をするときに大切にしたいこと

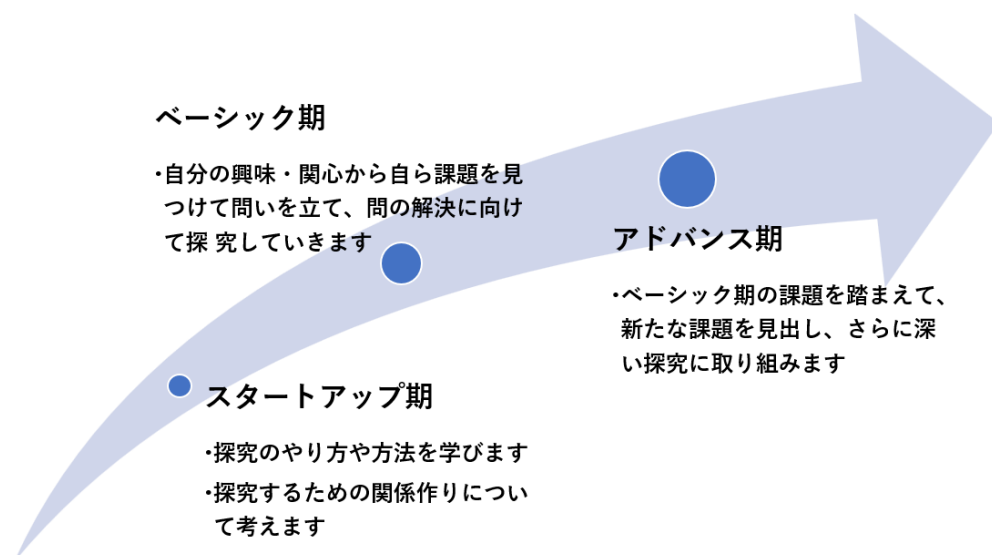
- ・楽しく学ぶ!
- ・自分の興味関心から出発し、生活や社会のウェルビーイングにつながる研究に取り組む!
- ・探究の過程（何をするか）を明確に!

### 3. 探究活動の流れについて

探究活動の3年間の流れは、1年生をスタートアップ期として探究のやり方や方法を学びます。そして、2、3年生をベーシック期、アドバンス期として実際に探究活動を行っていきます。

1年生では、グループワークスキルの研修、先生たちによるラボの実施、講義や実習などを通して、探究活動について学びます。そして、2年生での探究活動に向けて準備をしていきます。

2、3年生では、自分の興味・関心から自ら課題を見つけて問いを立て、問の解決に向けて探究していきます。基本的には個人で活動を行いますが、似たテーマのメンバーと報告会や交流会を行いながら進めていきます。最終的にこれまでの探究活動の発表を行い、レポート（論文）を作成して成果とします。



| 1 年生 スタートアップ期                                                                                                                                                                              | 2 年生 ベーシック期                                                                                                                                                                                                                             | 3 年生 アドバンス期 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間づくり(エンカウンター)</li> <li>・問いを立ててみよう</li> <li>・ラボに参加しよう</li> <li>・協力して取り組もう<br/>(グループワークスキル)</li> <li>・自由研究に取り組んでみよう</li> <li>・探究のやり方を学ぼう</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・問いを立てる</li> <li>・個人で探究に取り組む<br/>→調べる、調査する、実験・検証する、考察する など</li> <li>・中間発表(プレ発表会)</li> <li>・個人で探究に取り組む(最終発表会に向けて)</li> <li>・最終発表会(成果報告会)</li> <li>・論文(レポート作成)</li> <li>・次年度に向けて(2年生のみ)</li> </ul> |             |

#### 4. 探究の授業(総合的な学習の時間)について

##### ①探究の時間でやっていくこと

|                |                                                                                                |
|----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 現状報告会          | 自分の課題に対して、今どのような状況なのかを報告します。<br>→これまでに(前回以降)何をやってきて、どのような結果が出ているのか、今後どうしていくかを伝えます。             |
| 意見交流会<br>(相談会) | 他の人の報告を聞いて詳しい話を聞きたい、ちょっと相談したい、などの場合にこの時間を設けます。自分の今後の探究に生かせるような時間にします。                          |
| 個人探究           | すべきことが決まっている人は、個人で探究を進めていきます。<br>→計画の見直し、今後すべきことの確認、集めたデータの分析<br>アンケートの作成、外部との連絡調整、実験、制作・製作 など |